

17

機管理センターに官邸対策室を設置した。官邸入りした岸田文雄首相は①状況把握に努める②政府一丸とな

身して「たこし」などと投稿した。宮城、福島両県では昨年2月にも震度6強の地震が

発生。関連死も含め3人が亡くなり、計180人以上が重軽傷を負った。

吉野川市のNPO 吉田医師

避難民への支援開始

ハンガリー国境 一時退避施設 医薬品仕分け協力



ロシアのウクライナ侵攻から逃れた避難民を支援するため、隣国ハンガリーに入ったNPO法人「TIC



ハンガリーで支援活動を始めた吉田医師(右から2番目)ら(TICO・AMDA合同チーム提供)



OR(吉野川市)の吉田修代表理事(63)は同市山川町前川、医師らが15日、ウクライナとの国境付近の街ベレグスラーニーで本格的な支援活動を始めた。避難民に食事やシャワー、トイレなどを提供するヘルプセンターで、薬の仕分け作業を手伝うなどした。

に入り、現地の内科医と一緒に活動している。吉田医師によると、けが人は目立たず、常備薬が切れた人らがセンター内の仮設診療所を利用している。

訪れるウクライナ人の多くは親戚や知人など避難先に当てがある人で、センターは中継地点になっている。断続的にワンボックスカーでやって来て、1日約20人が寝泊まりしている。出国できた女性と子どもが大半で、中には暗い表情をした人もいたという。

吉田医師は「普ルワンダで経験したような難民キャンプとは雰囲気違って普通の人が行き来し、落ち着いた感じ。各地から届いた薬を、フランス語やドイツ語の表記に苦しみながら仕分けしている。ボランティアも大勢いるといい、「ハンガリーの人たちは本当に熱心に対応していて、その寛容さと懸命さに心を打たれている」と語った。

吉田医師は9日に日本を出発。トルコとハンガリーの首都ブダペストを経由して現地入りした。「自分ができることを手伝い、日本人たちも心配していると伝え続けている」と話している。

(秦梨帆)

【紙面編集】小山美久

鳴潮

きのうの陽気に誘われて、蜂須賀桜、徳島中央公園に大勢の人が足を向けていた。春の光を精いっぱい吸い込んで、たおやかにふくよかに薄紅色の並木が続いている。このどかさ、久しぶり。コロナも、まだまだ予断は許されないけれど、空気さえも春色を帯びてきた▼同じ世界に、硝煙の立ちこめる国がある。同じ徳島の人々が今、難民支援の最前線に立つ。吉野川市の国際協力団体TICOの吉田修医師が、隣国ハンガリーに入り、避難民のケアに当たっている。「今やらなければいつやるんだ」とインタビューには答えていた▼ウクライナは深刻な医薬品不足に陥っているようだ。助かる命も助からない悲劇が人口約4400万人の国土のあちこちで起きているのだろう▼ロシアに激しく攻めたてられている首都キエフだけで約400万人が暮らしている。知らぬ振りを決め込んではいけない。TICOでは寄付も募っている▼侵略戦争は並外れた代償を伴うと、国際社会は示さなければならない。平和を誠実に希求しているわが国がイニシアチブを取りたい▼あらゆる物が商品として売買される現代。金もうけばかりに知恵を使うのは惜しい。「平和」も立派な商品だ。岸田首相は「生の商人」として、「死の商人」はびこるこの世界を飛び回るべきである。「平和はいりませんか」と。